UNIVANCE

環境報告書2025

もくじ

ごあいさつ		3
ユニバンス経営理念群		4
環境理念・方針・目標		5
環境中期計画		6
環境目標達成状況		7
環境改善活動に関するデータ		8
環境マネジメント		9
環境に対する取り組み	省エネルギー推進	10
	再生エネルギー導入推進	13
	購入品CO_2削減	14
	水資源に対するアプローチ	15
技術による環境への貢献		16
地域の皆さまとのコミュニケーション		18

ごあいさつ

「挑戦・失敗・学び」のプロセスを大事に そして、一人ひとりの変革から大きな変革へ ――

代表取締役社長　髙尾　紀彦

当社では、これまでの活動を通じて環境問題の重要性への認識は企業文化として定着してきました。

しかし、持続可能な社会の実現には、これまでの延長ではなく、企業そのものの変革が求められています。そしてその変革は、マーケティング・ものつくり・アフターサービスなど事業を行う上でのすべてのプロセスに必要であり、実行するのは経営者を含めた従業員一人ひとりです。

ユニバンス中期経営戦略「Vision2030」において、2025年度は変革の第一歩を踏み出す重要な年であり、それが実現できるかどうかが試金石であると考えます。

従業員一人ひとりが「挑戦・失敗・学び」のサイクルを臆することなく重ねながら活動に参画することで、変革のスピードは加速し、環境目標とVision2030の達成へとつながります。

当社はこの一年を「変革の年」と位置づけ、未来に向けて取り組んでまいります。

当社の強みである『技術』を活かして 持続可能な社会の実現に寄与します

環境管理責任者　藤崎　一

当社は持続的な成長と企業価値向上のため、事業を通じた社会課題解決を目指しています。

環境保全は重要課題として、環境方針「将来世代へより良い地球環境を引き継ぐため、環境に優しい『ものつくり』を追求し、企業活動と地球環境の調和を図る」を定め、活動を推進しています。

本年度は従来の2050年カーボンニュートラル達成に加え、2030年にサーキュラーエコノミーとして廃棄物ゼロを達成することを中期目標に設定し、グローバルに活動を推進しています。

当社の強みである『技術』を活かして製品ライフサイクルおよびサプライチェーン全体で環境保全に貢献し、持続可能な社会の実現に寄与してまいります。

ユニバンス経営理念群

Be UNIVANCE！

社名の由来である４つのフレーズにつながる行動指針に従って企業活動を行うことで
経営ビジョンを体現し、企業理念の達成を目指します。

Be UNIVANCE！

わたくしたちの指針

UNIQUE
独自性を大切にします

UNITED
チームワークを大切にします

UNIVERSAL
多様性を大切にします
全体最適を大切にします

ADVANCE
結果にこだわります
挑戦し続けます

UNIVANCE

環境理念・環境方針

環境理念

株式会社ユニバンスは、環境保全が人類共通の最重要課題の一つであると認識し、企業活動のあらゆる面で地球環境の保全に配慮して行動します。

環境方針

当社グループは、
将来世代へより良い地球環境を引き継ぐため、環境に優しい「ものつくり」を追求し、企業活動と地球環境の調和を図っていきます

1　ルールを守り、地球環境に配慮した企業活動を行います
2　資源、エネルギー等の使用を最小限にします
3　環境リスクを抽出し、未然防止を継続的に行います

環境中期計画

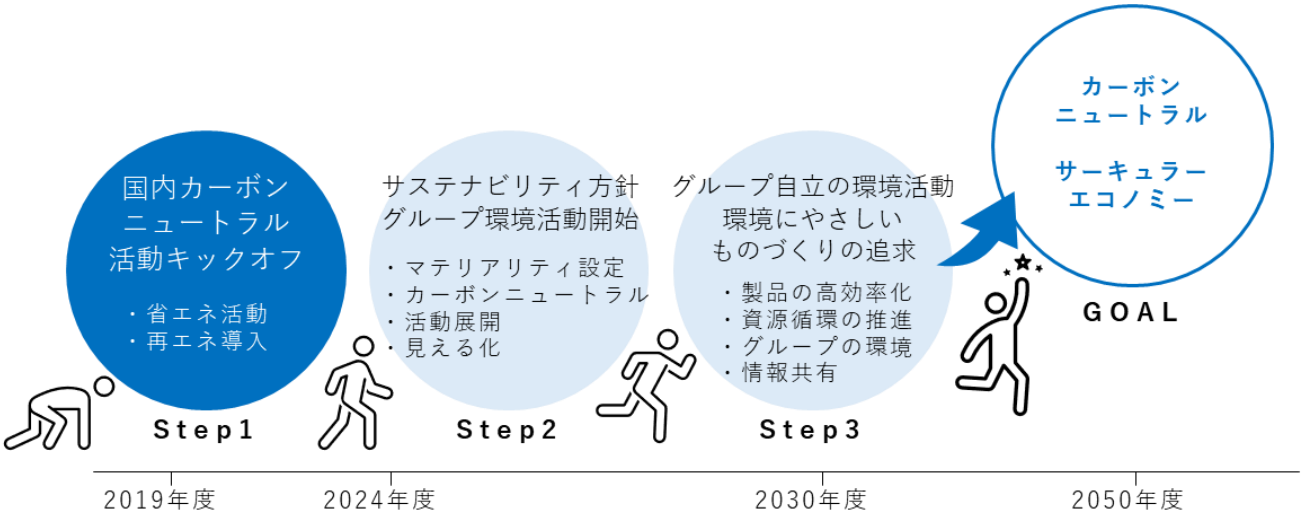
当社の中期経営計画「Vision2030」の、「『ものつくり』を通じた『ことつくり』で社会に貢献する」を目指す上での社会的課題として、持続可能な社会の実現に向け、グループ全体で環境価値を創出するため、環境中期経営計画に基づいて活動に取り組んでいます。

中長期環境目標

資源効率の向上と環境負荷の最小化を軸に、グループ全体でカーボンニュートラル（ CO_2等の温室効果ガスの排出を実質ゼロ）とサーキュラーエコノミー（廃棄物ゼロ ）を目指します。

環境中期計画取り組みのステップ

日本拠点は2019年よりカーボンニュートラル活動をスタートしており、2030年目標（カーボンハーフ）は前倒しで達成する見込みです。
国内・海外関係会社については、2025年度から活動を開始しました。



環境目標達成状況

環境事故件数 ～重大・軽微環境事故件数目標～

2024年度環境事故に関する目標と実績

重大環境事故	目標	0件	実績	0件
※軽微環境事故	目標	28件	実績	38件

※軽微環境事故は応急処置および恒久対策、注意喚起を行い、再発防止措置を実施しています。

CO_2排出量 ～カーボンニュートラル目標～

2024年度CO_2排出量削減目標と実績

省エネ分	目標	400 t	実績	550 t
全社合計	目標	※1 1,200 t	実績	※2 8,202 t

※1 全社合計の排出量削減目標は、2050年のカーボンニュートラル達成のため、毎年1,200tで固定
※2 大幅な排出量削減は、グリーン電力導入によるもの

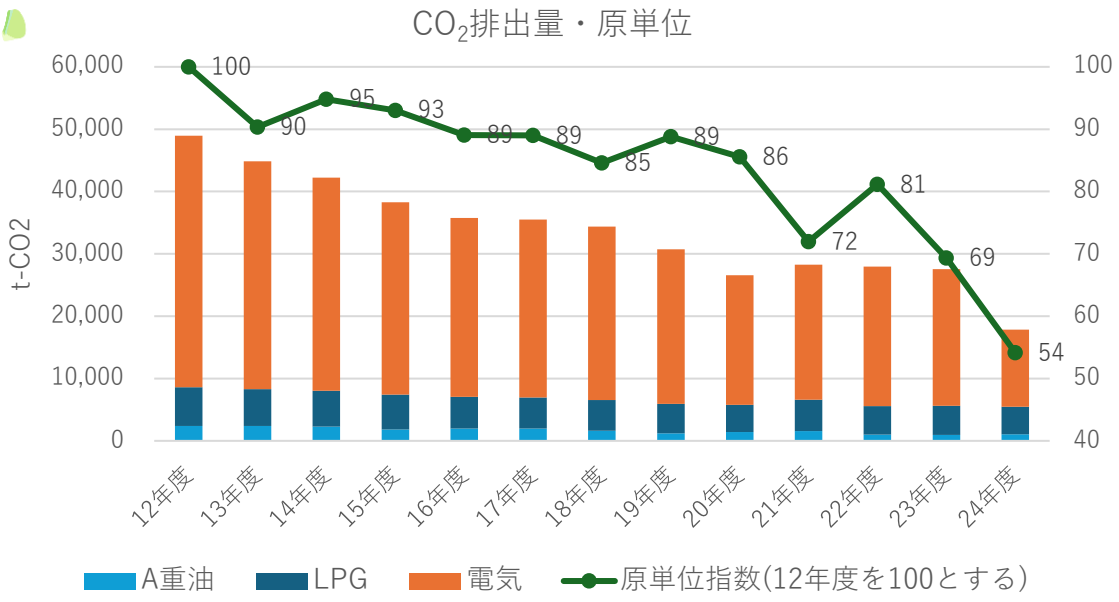
サプライヤーエンゲージメント、気候変動、水セキュリティのCDPスコアがいずれも昨年からランクアップ！省エネ法評価制度でもＳクラスをキープ

企業の環境への取り組みを評価するグローバル指標である「CDPスコア」。当社の2024年度のスコアはサプライチェーン分野が「A-」、気候変動分野が「B」、水セキュリティ分野が「B-」と、いずれも昨年から1ランクアップいたしました。これは、8段階中の2・3・4段階目にあたり「自社の環境リスクや影響について把握し、行動している」と評価されたことを示すものです。

また、資源エネルギー庁が定期報告書を提出する事業者を、省エネに対する取り組みによって評価する「事業者クラス分け評価制度」では、最も上位である「Ｓクラス」と認定されています。

環境改善活動に関するデータ

CO_2排出量の推移



CO_2・廃棄物排出量、リサイクル率

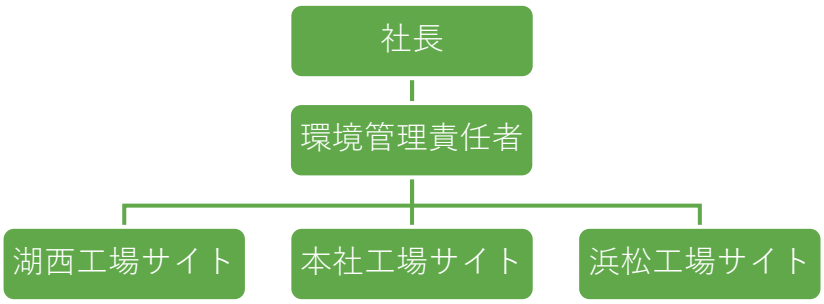
	単位	2022年度	2023年度	2024年度
CO_2排出量（SCOPE1、2）（本社・湖西・浜松工場）	t-CO_2	29,030	28,564	18,334
CO_2排出量（SCOPE1、2）（国内・海外関連子会社）	t-CO_2	19,706	19,890	18,865
廃棄物等総排出量（リサイクル率）	t（%）	9,833（96%）	10,393（96%）	8,618（95%）
水資源使用量	m^3	35,918	34,504	37,316
化学物質管理（PRTR届出取扱量）	kg	少量対象外	14,532	9,600

日本拠点の大幅なCO_2削減はグリーン電力導入によるもの。廃棄物の増減は売上減・不良削減など廃却品の削減によるもの。水資源の増加は冷却水などの使用量増加と排水処理量減少の差分。

環境マネジメント

当社では、環境に関する国際規格「ISO14001」認証を取得しています。

環境活動推進体制



ISO14001認証

2003年度取得（株式会社ユニバンス）

CERTIFICATE

dqs

This is to certify that

UNIVANCE CORPORATION
Head Plant

Reference

2418 Washizu, Kosai-city,
Shizuoka 431-0494
Japan

with the organisational unit/sites as listed in the annex

has implemented and maintains an **Environmental Management System.**

Scope:
The environmental activities and supporting processes associated with:
The design, development and manufacture of transmissions and transfer units, components & parts.

Through an audit, documented in a report, it was verified that the management system fulfills the requirements of the following standard:

ISO 14001 : 2015

Certificate registration no.	20003431 UM15
Date of original certification	2003-12-19
Date of revision	2024-08-03
Date of certification	2024-09-04
Valid until	2027-09-03

ANAB IAF

DQS Inc.

IQNET

David Tahor
Managing Director

Accredited Body: DQS Inc., 1500 McConner Parkway, Suite 400, Schaumburg, IL 60173-5513
Administrative Office: DQS Japan Inc., 7F F&G Hizobi Shinbashi, 2-8-1 Hizobi Shinbashi, Minato-ku, Tokyo 105-0003 Japan
The validity of the certification can only be verified by the QR code.

1 / 2

Annex to certificate
Registration No. 20003431 UM15

UNIVANCE CORPORATION
Head Plant

Reference

2418 Washizu, Kosai-city,
Shizuoka 431-0494
Japan

Location	Scope
20003433 UNIVANCE CORPORATION Hamamatsu Plant 8 Kozawatari-cho, Chuo-ku Hamamatsu-city, Shizuoka 432-8063 Japan	The environmental activities and supporting processes associated with: The manufacture of parts for reduction gear units, forged parts for transmissions and transfer units.
20003432 UNIVANCE CORPORATION Kosai Plant 28-1 Konri, Kosai-city, Shizuoka 431-0442 Japan	The environmental activities and supporting processes associated with: The manufacture of transmissions and transfer units, speed reduction gear units components & parts; and the manufacture of steering gear and disc brake units & parts. The design and manufacture of machining machines, jigs, components & parts for machines.

This annex (edition: 2024-08-03) is only valid in connection with the above-mentioned certificate.

2 / 2

2008年度取得
株式会社富士部品製作所

2016年度取得
UNIVANCE (Thailand) Co., Ltd.

2019年度取得
PT. UNIVANCE INDONESIA

【参考】
2007年度
エコアクション21取得
（株式会社遠州クロム）

マネジメントレビュー・内部監査

ISO14001に基づき、経営層による環境マネジメントレビューおよび内部監査を年に1度実施しています。

環境に対する取り組み

当社では、さまざまな観点で環境保全に取り組んでいます。

省エネルギー推進～社内省エネルギーレポート発行～

23年度の創刊号に続き、省エネルギーレポート第2号を発行。
改めて省エネとは何か振り返り、カーボンニュートラルに対する取り組みや、社内改善事例を紹介し、従業員一人ひとりが省エネ意識を持ち、省エネにつながる行動を取るよう促すことを目指しました。

社内省エネルギーレポート

省エネとは……

エネルギー使用量を抑え、効率的に使用すること。これによりCO_2排出量削減につながります。

2030年のカーボンハーフ、2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、多角的な視点で具体策に取り組んでいます

社内省エネ事例

パソコン関連

- パソコンディスプレイの輝度を下げる
- 離席時のパソコンモニターOFF
  帰宅時のパソコン電源OFF

エア関連

- 不要なときに止められるようエアホースにコックを取り付け
- エアマイクロ使用時のみエアが出るようフットスイッチ導入

工程改善

- ショットピーニング加工で、1回に処理できる数を増やし、1つあたりの消費電力低減
- 照射時間が長いショットブラスト加工工程の条件、治具、設備を変更して時間短縮し、消費電力低減

…And more!

省エネルギー推進～インフラ設備ロス削減の取り組み～

専門家のコンサルティングによる省エネ施策のアイデアを積極的に取り入れ、環境省や経済産業省の補助金なども活用させていただいています。

補助金を活用したエア供給設備更新

工場では、切削したときに発生する切りくずを取り除くときなどに圧縮空気を使っています。その圧縮空気を生み出すためにコンプレッサーおよび関連機器を多く設置していますが、これらはかなりの電力を消費するため、省エネ性能の高い機器を導入したり、システムを最適化することが重要です。

2023年度にエア供給設備について、計測、分析、コンサルティングを受けたところ、ロスが大きいことが判明したため、設備老朽化の課題解決も合わせた、更新、台数制御、視える化による省エネを図ることとなりました。また更新にあたっては、環境省の「工場・事業場における先導的な脱炭素化取組事業（SHIFT事業）」を活用させていただいています。

この更新による効果はCO_2排出量削減をはじめ他にもいろいろ……

- 機能効率向上 約38.5%
- 8 CO_2排出量 %／年削減
- 異常の 早期発見
- データ 常時監視可

省エネルギー推進～生産設備ロス削減の取り組み～

カーボンニュートラル達成に向け、生産設備を「減らしてつくる」「変えてつくる」ことを推進しています。

シンプル・コンパクトなラインづくり

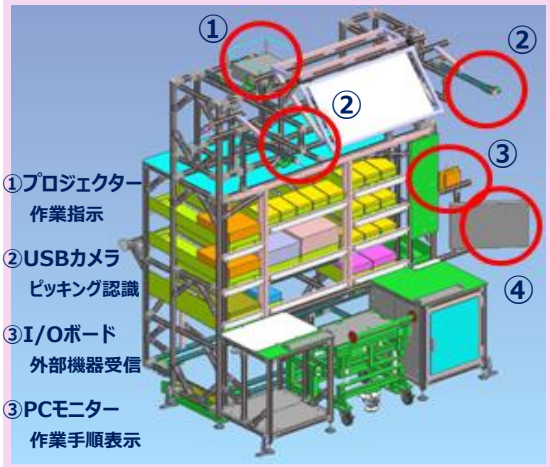
エネルギーロス解消

消費電力・待機電力削減

油圧作動油廃棄削減

…etc.

シンプルでコンパクトなラインづくりを目指して改良し、あるトランスファー組み立てラインでは、プロジェクションマッピングを利用し、多くのロスを削減することができました。



生産エリア面積	約	67	%削減
作業習熟時間	約	60	%削減
設備立ち上げ工数	約	30	%削減
設備投資	約	20	%削減

生産効率の低いラインの改廃

市場ニーズの変化により、稼働率が低下した古い生産ラインが非効率な場所に点在し、無意味な待機電力消費、余剰廃棄物処理など、さまざまなエネルギーロスが生まれるケースがあります。そうした「ムリ・ムダ・ムラ」のある生産ラインの効果的な変革を推進しています。

その他の取り組み

●エネルギー効率
- エネルギー消費最適化
- 高効率設備導入
- エネルギー管理システム導入

●省エネルギー技術
- 高効率モーター
- LED照明

●排出ガス削減技術
- 排出ガス管理
- 雰囲気ガス再生装置

●インダストリー4.0/IoTの活用
- スマート製造
- IoTによる効率的なモニタリングと制御

再生可能エネルギー導入推進

温室効果ガスの排出量と吸収・除去量を差し引きゼロにする「カーボンニュートラル」を達成するためには再生可能エネルギーの導入を進めることも必要です。ユニバンスはさまざまな再生可能エネルギーの利用を目指しています。

静岡Greenでんき

2021年9月より本社事務所棟の電力を、中部電力ミライズ株式会社様が提供する「静岡Greenでんき」に切り替えました。
これは静岡県内の水力発電所に由来したCO_2排出ゼロの電気であり、「電気の地産地消」とも言えるもので、脱炭素ばかりでなく地域貢献にもつながります。

CO_2フリー電気

2024年4月より本社工場で使用している電力の50%がCO_2フリー電気となりました。
また、静岡Greenでんきと合わせて全社の電気使用量の30%がCO_2フリーとなり、2030年度の目標であったカーボンハーフを前倒しで達成することができました。

太陽光発電

本社工場では、2025年12月の発電開始に向けて、太陽光発電システム(740kW)を導入します。
これにより、年間で約780MWhの電力を発電し、約350トンのCO_2排出削減効果を見込みます。
さらに、今後も他工場への太陽光発電システムの導入を検討していきます。

購入品CO_2削減

購入品に関わるCO_2排出量削減のために重要である、お取引先さまとの連携を推進しています。

取引の手引き改訂

企業のサステナビリティの達成状況を評価・改善する国際的なプラットフォームである「EcoVadis」の評価基準をもとに取引の手引きの見直しを進めています。

お取引先さまCO_2排出量調査

2024年度に従来のCO_2排出量方法で求めた理論値の妥当性を検証したところ、実態と乖離していることが分かったため、2025年度のなかで改めて実態調査を実施しています。

その他の取り組み

購入品がどの地域から運ばれているのか調査し、効率的な物流方法・ルートを検討し、2025年度に実施していきます。

ミルクラン（巡回集荷）

納入代行

輸送業者紹介

…etc.

水資源に対するアプローチ

社内で使用する水の量を削減する、社内から排出する水の水質基準を法定基準より厳しいものに設定する等、水資源を守る取り組みをしています。そのほか、湖西環境保全協議会のメンバーとして地域の環境を保全する取り組みも行っています。

水質調査

湖西環境保全協議会では、湖西市内を流れる４つの河川の水質を定点調査をしています。

調査項目は、水温、川幅、流量、pH（水素イオン濃度）、COD（化学的酸素要求量）、BOD（化学的酸素要求量）、DO（溶存酸素）、透視度、指標生物。

結果はパネルにまとめ、こさい環境フェアの湖西環境保全協議会のブースで市民の皆さんにお知らせしています。

水生生物観察会

先の水質調査の機会を利用して、湖西市内の小学生を招いての水生生物観察会を開催しています。水質調査を行っている調査ポイントで、昆虫や貝類、エビ、カニ等の水生生物を集めて観察します。

どんな生物が生息しているかで、その河川の水がきれいな状態なのか、汚れているのかが判定できます。

技術による環境への貢献

現在、モビリティ市場は脱炭素化や環境負荷の低減といった地球環境への配慮を背景として、電動化や再生可能エネルギーとの連携、MaaS（Mobility as a Service）の推進、シェアリングエコノミーの拡大等を通じて、多様な移動手段やサービスの登場など急速かつ多面的に拡大を続けています。

そこで、私たちは自動車分野で培ってきた技術を活用し、様々なモビリティ向けのギヤボックスやパワーユニットの開発を通じて、自動車技術の進化と環境負荷低減に貢献してまいります。

電動車向けギヤボックス開発

次世代の電動車(EV)市場の進展に対応すべく、電動パワートレインに最適化された様々なギヤボックスの開発に取り組んでいます。

従来の内燃機関車とは異なる、EV特有の出力特性や静粛性、小型・軽量、高効率といった要件に応えるため、最適な減速機構の設計や高精度な歯車加工技術の開発を進め、高効率かつ信頼性の高い製品の実現を目指しています。

さらに、走行性能の向上に加え、車両の航続距離延伸につながるエネルギー損失の低減といった課題にも注目し、ギヤボックス単体での効率最大化や、モーター・インバーターとの一体最適化にも取り組んでいます。

小型スポーツカー用 e-Axle

出　力：200-450kw
ギヤ比：8
特　徴：軽量・高静粛性

電動２輪車用ドライブユニット

出　力：6-11kw
ギヤ比：10-12
特　徴：拡張性・軽量・高静粛性

電動カート用 e-Axle

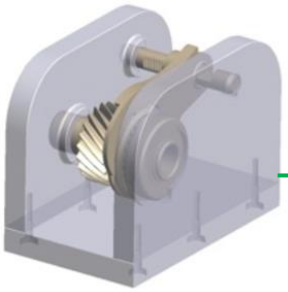
出　力：0.4kw
ギヤ比：30
特　徴：軽量・廉価

要素技術開発

環境に良いインパクトを与え、製品の性能・信頼性を支える基盤となる要素技術開発にも力を入れています。

HEV／PHEVに適した変速機構の提案

HEV/PHEV車両向けに高速走行時の燃費が向上する(高効率)、コンパクトな変速技術を提案しています。



ドグクラッチ機構

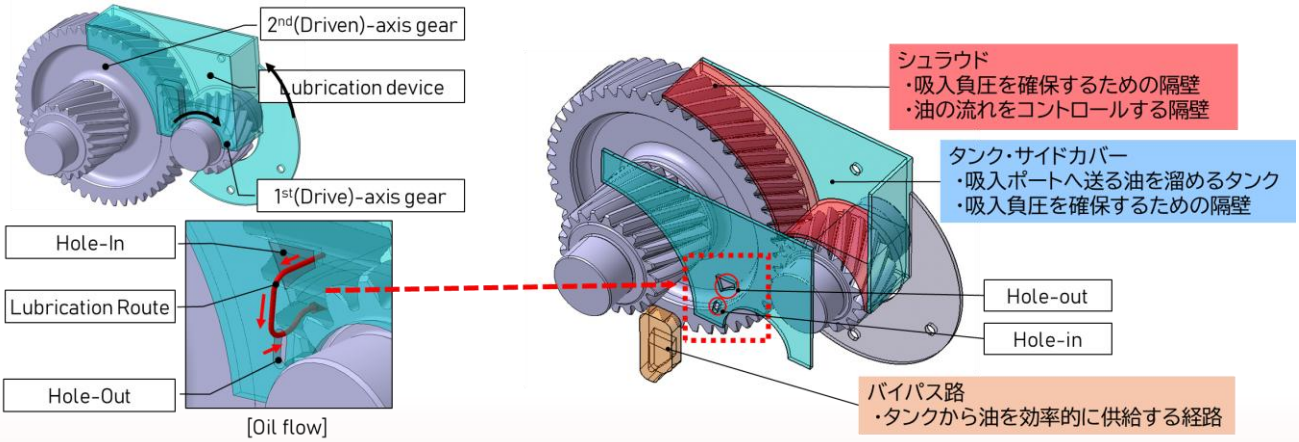
クラッチ解放時の
引きずり損失なく、
燃費向上に貢献

軸内変速機構

ギヤボックス長さ
縮小に貢献

エネルギー損失低減可能な潤滑デバイスの提案

電動ギヤボックス内で高速回転するギヤ(モーター軸上ギヤ)歯面へ潤滑油を効果的に付着させるため、潤滑デバイスで吸入負圧を確保し、油の流れをコントロールすることで、オイルポンプ等の追加部品や動力、電力が不要な潤滑方式を提案しています。



地域の皆さまとのコミュニケーション

当社では、地域の皆さまとの共存・共栄を目指し、良き企業市民として環境に貢献する取り組みをしています。

こさい花いっぱい運動

湖西市の「こさい花いっぱい運動」に参加し、本社工場周辺に花を植えています。

また、就労継続支援事業所・浜名学園なぎさ作業所で生産した花苗も購入し、植えています。

静岡県グリーンバンク

公益社団法人「静岡県グリーンバンク」に賛助会員として参画しています。

静岡県グリーンバンクは、静岡県に緑を増やすため、花の種や苗木の提供、緑化ボランティアの育成、森を豊かに守ることを応援する「緑の応援団」です。

浜名湖クリーン・古見川きれい作戦

浜名湖周辺の自治体（浜松市・湖西市・静岡県）や商工会、観光協会、企業等で構成する「浜名湖の水をきれいにする会」が主催する「浜名湖クリーン作戦」「古見川きれい作戦」に参加しています。

◀ 浜名湖クリーン作戦

古見川きれい作戦 ▶

株式会社ユニバンス

環境報告書 ー2025年度ー

2025年10月発行